



皆さんこんにちは。2023 年度 SSH 通信作成委員です。この SSH 通信では、本校の SSH プログラムの 1 年間の報告をお伝えしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

第 2 号では、高校 1 年生を対象に 5 月 12 日（金）と 6 月 2 日（金）に行われた「イノベティブ・サイエンス講義」の内容を中心に紹介します。

<第 1 回 イノベティブ・サイエンス講義（5 月 12 日）>

1. 「次のイノベーションを起こすのは君達だ」

講師：田原栄俊 先生（広島大学副学長・広島大学大学院医系科学研究科教授・株式会社 PURMX Therapeutics 代表取締役社長）

この講義では、イノベーションを起こすために必要なスキルや考え方を、田原先生ご自身の経験を踏まえて説明していただきました。田原先生は、これからの日本に求められる人材は「ありたい未来を構想」「自らの手で実現」することのできる人であると述べられていました。また、イノベーションを起こすためには、コミュニケーション力が最も必要であると話されていました。

【参加者の感想】

- ・田原先生が生徒からの質問に対して、人脈を得るには、自身の目標や夢を明確に示し、興味のある場に積極的に参加していくことが重要だと仰っていました。私たち一年生は、二、三年生で取り組む研究内容や共に課題に取り組むメンバーも考えていく必要性があります。自分は何をどのように研究したいのかをはっきりと決め、興味のある分野に関する講義などを受けてみようと思いました。
- ・日常の課題とかを、少しの発想の工夫でイノベーションへと持っていくと言う考え方は新しいことについて考える課題研究においてとても大切なものになるのではないかなと思います。例えば研究のテーマであったり、実験のやり方であったりということについて工夫しやすくなるのではと思います。また、これからの長い人生においてイノベーションを起こそうという意識はとても大切になってくるんじゃないかなと思いました。課題を自分で解決しようと考えてながら生きていきたいです。



2. 「アントレプレナーシップ」

講師：川瀬真紀 先生（広島県公立大学法人 叡啓大学 ソーシャルシステムデザイン学部教授 課題解決演習統括国際交流センター長、キャリアデザインオフィスディレクター）



アントレプレナーシップとは、企業家精神のことで、企業者の精神や態度、スキルを有して行う活動全般のことで、これはつまり「新しいことに取り組むこと」だそうです。私たちがアントレプレナーシップを発揮するために、自分の得意なこと、好きなこと、社会に役立つことを組み合わせた取り組みを、自分のぶれない軸を持って行うことが大切だとわかりました。

【参加者の感想】

- ・川瀬先生が述べていた「ぶれてはいけない軸」は目標達成において参考になります。課題研究に当てはめると、研究を進めるにつれて新しく調べたい事が出てくると思います。しかし最初に決めた研究の目的を大きく逸れることは時間の無駄だと思います。研究が脱線しないように気を付けていきたいです。
- ・自分のぶれない軸を持ちたいということは、以前より考えておりましたがその分失敗することを恐れていたようにも感じます。だから、ぶれない軸を持ちつつ、むしろ、より軸がぶれないようにするためにも、様々なことにチャレンジしていき小さな失敗を自分の経験にしていきたいと思いました。
- ・「企業家」という言葉を聞いて、始めは難しそうだなと思っていたが、「企業家らしさは誰にでもある」と話されているのを聞いて、自分の得意なこと、好きなこと、やってみたくいことにもっと目を向けて生活したいと思いました。自分の中の軸を持って、課題研究はもちろん、様々な物事に取り組んでいきたいです。

<第2回 イノベティブ・サイエンス講義 (6月2日) >

1. 「起業家マインドのスタート」

講師：今谷忠弘 先生 (マイクロメトリジャパン株式会社 Process Equipment Engineering Director)

今谷先生からは、セルフスターターについて細かくお話いただきました。セルフスターターとは「自分で考えて行動を起すことができる人」のことを指します。講義では先生が勤務されているマイクロ・ジャパンのお話を聞くとともに、世界を見据えた技術の使い方や先生の実験の経験から、セルフスターターについて学びました。また「レンガ職人」を例に、仕事をするときの目標作りやモチベーション作りの方法についてわかりやすくご説明いただきました。

[参加者の感想]

- ・成長的マインドと固定的マインドの違いをはっきり理解しました。固定的マインドは、できないと決めつけたり、諦めたりすることだけでなく現状に満足して終えてしまうことも含まれていると分かりました。世の中で生き残っていく優秀な存在は、成功しても満足して終わりにせずほかの最善策を考えたり、失敗したときにはきちんと向き合える人だと気づきました。自分は新しいことに挑戦しようとする力はあるけれど、満足した後の行動が成長的でないと感じたのでこれからはここを改善していきたいです。
- ・固定的マインドと成長的マインドの話が印象に残った。研究をするなかでは苦勞することや失敗することはたくさんあると思いますが、自分にはできないと思ったことも諦めず、別の方法を探してみることで、成功してもまた新たな疑問を追及して研究を進めること、失敗してしまったときは次に生かせるよう工夫することの三つを意識したいです。

2. 「起業の実例から理解を深める」

講師：金子幸治 先生 (マイクロメトリジャパン株式会社 Manufacturing Engineering Director)

金子先生は「起業家マインドはどこでも必要だ」とお話しされました。CYBERDYNE や itobanashi などの具体的な起業例や、高校生が企業と行ったイベントなどを通して、身近なところにあるヒントから取り組むべき目標を設定し、発展させることの大切さを教わりました。またグローバル競争では、ダイバーシティ (多様性) を意識することが活躍につながるようです。

[参加者の感想]

- ・今あることのいいところを活かして、今ないものをつくることで周りの人からより評価されることがわかりました。困っている人を助けたいという気持ちを持って、新たな技術を開発していく人たちの姿がかっこよかったです。技術を開発した後は、それをいかに多くの人の役に立つものにするかがポイントだと思いました。
- ・今までは、課題や自由研究で、自分の中での及第点であればその時点でやめてしまうことが多かったのですが、イノベーションを起こすためには、それが本当に最善の結果なのだろうかということを考えなければならないというお話がありました。研究でも、それが本当に最善の結果なのかということ、具体的には、その結果を根拠づける事実の数は最善を尽くした結果なのかということや、根拠から最善の結論を導き出しているかということを考える必要があるのかもしれないと考える必要があったと学びました。

<2023 年度 SSH 関連行事予定表>

* : 希望者

日程	行事内容	対象	日程	行事内容	対象
5/12	イノベティブサイエンス講義①	高 I	10 月	FS 講義①②	高 I
6/2	イノベティブサイエンス講義②	高 I	11/10	課題研究中間発表会	高 I・II
6/24	放射光施設研修	高 II AS*	11/21~24	韓国 (文山) 海外研修	高 II GS*
6/28	韓国事前学習	高 II	12/19~25	タイ海外研修	高 II AS*
7/18	研究倫理講義	高 II	12/27	SEA (Science English Arena) プログラム①	高 II AS
7/22	先端研究実習 : ナノデバイス 先端研究実習 : 基礎化学	高 II AS*	1/9~10	韓国 (天安) 訪日研修	高 II AS
			2/14	SEA プログラム②	高 II AS
7/25~27	韓国 (天安) 海外研修	高 II AS*	2/22	SSH の日	高 I・II
8/2	先端研究実習 : 海洋実習	高 II AS*	2 月	韓国 (文山) 訪日研修	高 II GS*
8/8~9	SSH 生徒研究発表会	高 III AS*	2 月	タイ訪日研修	高 II AS